HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ツングース諸語における条件文の相違について
Author(s)	白, 尚燁
Citation	北方言語研究, 5, 129-152
Issue Date	2015-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58338
Type	departmental bulletin paper
File Information	08Baek.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北方言語研究 5: 129-152（北方言語ネットワーク編，北海道大学大学院文学研究科，2015）

ツングース諸語における条件文の相違について

白　尚 燁
（北海道大学大学院博士課程）

0. はじめに

白（2014）は、ツングース諸語の副動詞*-mi*による条件用法（恒常条件を除く）が、ロシア領に分布するツングース諸語（エウェンキー語、ナーナイ語、ウデヘ語）のみに見られ、中国領ツングース諸語（ソロン語、ホジェン語、満洲語）にはそのような意味機能が確認できないことを指摘した。そこで、本稿は条件文の通言語的パラメータ（指示転換と意味類型）に基づき、ツングース諸語における条件文の相違について論じる。また、ツングース諸語の条件文に見られる言語間の違いが、言語の地理的位置と異主語限定の条件副動詞**-rAk-*の消失に基づいている可能性があることを提起する。

1. 条件文の通言語的パラメータ

第1章では、本稿で適用する条件文の通言語的パラメータ（指示転換と意味類型）について紹介する。

1.1. 統語類型（指示転換）

指示転換（switch-reference）は、従属節と主節における主語の維持または転換を文法形式として標示することを指す。下記のコリマ・ユカギール語の条件文は、指示転換によって異なる条件副動詞が使われる。即ち、同主語条件文（a）ではSS条件副動詞*-ŋide*を用い、異主語条件文（b）ではDS条件副動詞*-gene*を用いて条件文を構成する。以下、従属節と主節の主語が同一である場合についてはSS, 異なる場合はDS, 主語の異同にかかわらず同一形式が用いられる場合にはVSとして分類する[1]。

コリマ・ユカギール語

SS（同主語）

a) **el+jubege-ŋide**　tet-ek　lek-te-me.
NEG+stuff.oneself-COND.CVB.SS　you-PRED　eat-FUT-OF.1SG
「（私が）満腹じゃなかったら、あなたを食べるだろう」

（Maslova 2003: 164）

DS（異主語）

b) epie　arqa　**l'e-l-u-gene**,　met-kele nilgi　el+peššej-t.
grandmother　near　be-1-E-COND.CVB.DS　I-ACC　nobody NEG+throw-FUT(NEG:3SG)
「（私が）祖母の近くにいたら、誰も私を独りにしておかないだろう」

（Maslova 2003: 393）

[1] 以下、本稿における表記、グロス、和訳は、全て筆者によるもので、原典と異なることがある。

1.2. 意味類型（現実／非現実）

本稿は、条件文の意味類型に関する先行記述（Whaley 1997, Thompson et al. 2007, Dixon 2009）に基づき、条件文をその実現可能性によって2つのタイプ（現実条件と非現実条件）に分類する。現実条件は現在状況（a）、働きかけ（b）、予測（c）の条件文で、主節には主に現在・未来時制や命令・勧誘法の形式が用いられる[2]。一方、非現実条件は現在（d）または過去（e）の事実に反する条件文で、その構造は言語によって異なるが、主節に仮定法（条件法）あるいは過去時制を伴うことが多い。さらに、言語によっては、下記の英語のように、この条件文の意味類型による対立が主節だけではなく、従属節にも見られることがある。

現実条件（real conditional）：実現可能な条件

・現在状況　a) If it’s raining out there, my car is getting wet.
「外に雨が降っているなら、私の車は濡れている」
（Thompson et al. 2007: 255）

・働きかけ　b) If you like it, try it[3].
「（それが）好きなら、（それを）試してみなさい」

・予測　c) If he gets the job, we’ll all celebrate.
「彼が仕事を見つけたら、私たちは皆祝うだろう」
（Thompson et al. 2007: 256）

非現実条件（unreal conditional）：実現不可能な条件

・現在の事実に反する条件

d) If I were a rich man, I would fiddle all day long.
「もし私が金持ちだったら、一日中ぶらぶら過ごすことができるのに」
（Whaley 1997: 253）

・過去の事実に反する条件

e) If Ted had been more responsible, they would have arrived safely.
「もしテッドがもっと責任感のある人だったら、彼らは安全に着いたのに」
（Whaley 1997: 253）

1.3. ツングース諸語の分類

図 1. ツングース諸語の分類（Ikegami 1974, 風間 1996に基づく）

第Ⅰ群：エウェンキー語(Ek)，エウェン語(E)，ネギダル語(N)，ソロン語(S)
第Ⅱ群：ウデヘ語(U)，オロチ語(Oc)，ホジェン語(Hz)
第Ⅲ群：ナーナイ語(Nn)，ウルチャ語(Ol)，ウイルタ語(Ut)
第Ⅳ群：満洲語(M)

[2] 本稿は、白（2014）と同様、下記のような真理・習慣を示す恒常条件は現実条件文として含めない。
If you step on the brake, the car slows down.　「ブレーキを踏むと、車のスピードが落ちる」
（Thompson et al. 2007: 255）

[3] これは筆者による用例である。

本稿は、上記のツングース諸語の分類にしたがって、ツングース諸語の条件文について検討していく。

2. ツングース諸語の条件文

2.1. 第Ⅰ群

2.1.1. エウェンキー語

Nedjalkov（1997: 54）によれば、エウェンキー語の条件文は条件副動詞*-mi*と*-rAki-*[4]で示され、この2つの条件形式は、指示転換によって使い分けられると記述されている。言い換えれば、同主語の条件文は*-mi*[5]が用いられ、異主語条件文は*-rAki-*によって構成されるということである。また、条件文の意味類型から見ると、これらの条件副動詞は、下記の用例のように、現実・非現実条件に関係なく条件文を成す。エウェンキー語の現実条件文は、主に未来時制、命令法の文で多く見られる。一方、非現実条件文は、事実に反する仮定を示す仮定法の形式*-mča-*が主節の述語動詞に接続することで表される。下記の用例1-3, 1-4, 1-5, 1-6が非現実条件文で、ここでも指示転換によって条件副動詞の選択が決まる。

表1. エウェンキー語の条件形式[6]（Nedjalkov 1995, 1997に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
条件副動詞	*-mi*		*-rAki-PERS*	*-mi*		*-rAki-PERS*

現実条件

SS

1-1) aja-t　**hawa-l-mi-l,**　bəjə-l　oo-ǰaŋaa-sun.
good-INS　work-INC-COND.CVB-PL　person-PL　become-PTCP.FUT-2PL

---

[4] 条件副動詞*-rAki-*は動詞語尾*-rA*が含まれている形式で、前に来る動詞語幹末の子音によって*-rAki-*~*-dAki-*~*tAki-*~*sAki-*のように交替するが、本稿ではその代表形で示す。

[5] 但し、Nedjalkov (1995: 458-459)は、副動詞*-mi*が全体－部分あるいは所有の関係（part-whole or possessive relation）や参加者の重複（participants overlap：下記の用例参照）などにおいて、異主語を許すことがあると指摘している。このような現象は、ネギダル語、ウデヘ語、ナーナイ語、ウルチャ語など、ほかのツングース諸語の同主語副動詞にも見られる。本稿では、これらの用例を例外的な現象と見なす。

aja-t　**uj-mi,**　oron　ə-tə-n　sukča-ra.
good-INS　tie-COND.CVB　deer　NEG-FUT-3SG　run.away-PTCP
「（シカを）よく縛っておいたら、シカは逃げないだろう」　（Nedjalkov 1995: 459）

[6] 条件副動詞*-mi*と*-rAki-*は、用例1-1, 1-2, 1-3, 1-5で示すように、条件節が現在または未来の条件を示す際、その本来の形式が用いられる。しかし、下記の用例1-4と1-6のように、条件節が過去の条件を示す場合には、これらの条件副動詞がコピュラ動詞*bi-*に付いて先行する形動詞と分析的な構造を成す。この場合、同主語副動詞*-mi*は下記のように、その形式がそのままコピュラ動詞に付加されるが、異主語副動詞*-rAki-*は、コピュラ動詞*bi-*の形動詞過去形による条件形*bi-si-ki-PERS* (< be-PTCP.PST-COND.CVB-PERS)で、形動詞に後続して分析的な構造を形成する。このような現象は、他のツングース諸語（エウェン語、ネギダル語、オロチ語など）にも観察される。

条件節が現在または未来の条件を示す場合　SS: V-*mi* / DS: V-*rAki-PERS*

条件節が過去の条件を示す場合　SS: V-PTCP.PST+*bi-mi* / DS: V-PTCP.PST or PRS+*bi-siki-PERS*

「よく働き始めたら、あなたたちは人間になれるだろう」

（Bulatova and Grenoble 1999: 44）

DS

1-2) si dolbotono mundule **əmə-rəki-s**,
you.SG.NOM evening we.LOC come-COND.CVB-2SG
bi girki-wi əri-ǰəŋə-w.
I friend-REF.SG call-PTCP.FUT-1SG
「今夜あなたが私たちのところへ来るなら、私は友達を呼ぶだろう」

（Nedjalkov 1997: 54）

非現実条件

SS

1-3) asatkan-mə **ajaw-mi**, asila-mča-w.
girl-ACC love-COND.CVB marry-SUBJ-1SG
「私がこの女の子を愛していたら、結婚したのに」

（Nedjalkov 1997: 54）

1-4) si mindulə **əmə-čə** **bi-mi,** kətə-wə saa-mča-s.
you.SG.NOM I.LOC come-PTCP.PST be-COND.CVB many-ACC know-SUBJ-2SG
「あなたは私のところへ来たなら、たくさんのことが分かったのに」

（Nedjalkov 1997: 54）

DS

1-5) nuŋan dukuwu-r-wa mindu **buu-rəki-n**, bi əsi taŋi-mča-s.
he book-PL-ACC I.DAT give-COND.CVB-3SG I now read-SUBJ-2SG
「彼が私にその本をくれるなら、今あなたは（それを）読むのに」

（Nedjalkov 1997: 55）

1-6) saman **iri-čaa** **bi-siki-n**,
shaman cook-PTCP.PST be-PTCP.PST.COND.CVB-3SG
əŋnəmčəəl ilə-l bu-ǰa-rə.
NEG.SUBJ.3PL person-PL die-IMPF-PTCP
「シャーマンが調理したなら、人たちは死ななかったのに」

（Vasilevič 1936: 74）

2.1.2. エウェン語

エウェン語の条件文も、エウェンキー語と同じく、条件副動詞*-mi*と*-rAk-*[7]によって示される。Malchukov（1995: 18）は、この2つの条件副動詞による意味機能は同じだが、指示転換の有無によって区別されると述べている。要するに、エウェン語の条件文も、従属節と主節における主語の維持または転換によって、使い分けられるということである。条件文の意味類型において、エウェン語の条件副動詞は下記のように現実・非現実条件の区別なく条件文を構成することから、Malchukov（1995）による指摘通り、意味機能による対

[7] エウェン語の条件副動詞*-rAk-*も、先行する動詞語幹によって*-rAk~-Ak-~-dAk-~sAk-*のように交替する（Malchukov 1995参照）。

立はないと考えられる。

表2. エウェン語の条件形式（Malchukov 1995, 2008に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
条件副動詞	*-mi*		*-rAk-PERS*	*-mi*		*-rAk-PERS*

現実条件

SS

2-1) **əm-mi**, göön-ǰi-m.
come-COND.CVB say-FUT-1SG
「（私は）きたら、話すだろう」

（Malchukov 1995: 18）

DS

2-2) **əm-rək-ə-n**, göön-ǰi-m.
come-COND.CVB-E-3SG say-FUT-1SG
「（彼が）来たら、（私は）話すだろう」

（Malchukov 1995: 18）

非現実条件

SS

2-3) ini **bi-mi**, girkawač-mča.
alive be-COND.CVB move.around-SUBJ.3SG
「（彼は）生きていたら、動きまわるのに」

（Malchukov 2008: 271）

DS

2-4) ak-mu **muču-rak-a-n**, bujux-nə-mč-u.
brother-1SG return-COND.CVB-E-3SG hunt-DIRINT-SUBJ-1SG
「私の兄が戻ったら、（私は）狩りに行けるのに」

（Malchukov 2008: 271）

2.1.3. ネギダル語

ネギダル語の条件文も、上記のツングース諸語の条件形式と対応する条件副動詞*-mi*と*-jik-*[8]によって構成される。これらの条件形式にも、指示転換による使い分けが見られ、同主語条件文には*-mi*が、異主語条件文には*-jik-*が用いられる。意味上のパラメータにおいては、この2つの条件副動詞が現実・非現実条件に関係なく用いられることから、条件

[8] 条件副動詞*-rAk-*と*-jik-*における音韻対応に関しては、池上［1999 (1953)］を参照されたい。また、ネギダル語の条件副動詞*-jik-*は、動詞語幹末の子音によって*-jik-/-jixi-/-čak-/-čaxı-/-sixi-/-dixi-*のように様々な異形態を持つ（風間 2002: 122）。

文の意味類型による条件形式の対立はないと考えられる（下記の用例参照）。ネギダル語の現実／非現実条件は、エウェンキー語などに見られる仮定形*-mčA-*の有無によって区別される。

表3. ネギダル語の条件形式（Cincius 1982, 風間 2002, Pevnov and Khasanova 2003に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
条件副動詞	*-mi*		*-jik-PERS*	*-mi*		*-jik-PERS*

現実条件

SS

3-1) ge, **bələt-mi**, bələt-kəl=kə.
INTJ help-COND.CVB help-IMP.2SG=CLT
「ああ、手伝うなら、手伝ってくれ」
（風間 2002: 121）

DS

3-2) **tigdəl-lixi-n**, buu močʊjgɪ-ǰa-wʊn.
rain-COND.CVB-3SG we.EXC return-FUT-1PL.EXC
「雨が降ったら、私たちは戻るだろう」
（風間 2002: 122）

非現実条件

SS

3-3) ti n'exə-ǰe-wə-s **saa-čaa** **bi-mii**, ə-mčö-w xəlbu-jə.
that do-FUT-ACC-2SG know-PTCP.PST be-COND.CVB NEG-SUBJ-1SG take-PTCP
「あなたがそうすることを知っていたら、私は（あなたを）連れて行かなかった」
（Cincius 1982: 57）

DS

3-4) bi=da sunǰi ŋənə-mčə-w, bəgdi-w=da
I=CLT you.PL.INS go-SUBJ-1SG foot-1SG=CLT
sun bəgdiə-čin=da **oo-ji** **bi-sixi-n=da**[9].
you.PL.GEN foot-2PL=CLT become-PTCP.PRS be-PTCP.PST.COND.CVB-3SG=CLT
「私の足もあなたたちの足のようだったら、私はあなたたちと行けたのに」
（Pevnov and Khasanova 2003: 79）

2.1.4. ソロン語

ロシア領に分布する上記のツングース諸語と違って、中国領で話されるソロン語の条件

[9] 注6参照

文は、条件副動詞*-kki-*によって示される。ソロン語の*-kki-*は、上記のツングース諸語に見られるDS条件副動詞**-rAk-*と対応する形式であると推定される［池上 1999（1953）参照］。しかし、ソロン語の条件副動詞*-kki-*は、他の第Ⅰ群の言語と違って、異主語だけではなく、同主語の条件文でも用いられる。その用例を以下に示す。また、ソロン語の副動詞*-mi*が条件文の標識として機能する用例が確認できないことも、上記のロシア領ツングース諸語と異なるところである。ソロン語の*-mi*は、主に同時・先行または主動詞による動作の様態を示す用法として用いられる（用例4-5は先行用法）。意味上においては、条件副動詞*-kki-*が、下記の用例のように、指示転換と関係なく現実条件と非現実条件を成す。

表4. ソロン語の条件形式（Hu and Chaoke 1986, 風間 2007, 2008, 2013に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
条件副動詞	*-kki-PERS*			*-kki-PERS*		

現実条件

SS

4-1) **ədduuləə-kki**, uril-nii ugə-wə-n dooldɪɪ-xoldo=nee.
get.old-COND.CVB children-GEN words-ACC-3 listen-IMP.2PL=CLT
「歳を取ったら、子供たちの話をきいてください」

（風間 2013: 414）

DS

4-2) sii **uli-kki-si**, bii uli-ø-mi.
you.SG.NOM go-COND.CVB-2SG I go-PRS-1SG
「あなたが行くなら、私も行く」

（Hu and Chaoke 1986: 79）

非現実条件

SS

4-3) bii mugu-si **bi-kki**, tajjaa təggəəm-bə gada-ø-m=e.
I money-PROP be-COND.CVB that car-ACC take-PRS-1SG=CLT
「もし私はお金を持っていたら、あの車を買うんだけれどなあ」

（風間 2013: 417）

DS

4-4) sii ə-sə ǰɪnǰɪ-m **buu-r** **bi-kki**,
you.SG.NOM NEG-PST say-SIM.CVB give-PTCP.IMPF be-COND.CVB
tajjaa bʊgʊ bii baxa-m ə-sin ətə-r.
that place I find-SIM.CVB NEG-PTCP.IMPF can-PTCP
「もしあなたが教えてくれなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう」

（風間 2013: 417）

副動詞*-mi*の用例（先行用法）

4-5) too-ččı see **baxa-m,** ım-saa-sʊŋ=gee.
that-ANT.CVB tea get-SIM.CVB drink-PST-2PL=CLT
「それで（あなたたちは）お茶をもらって飲んだのか」

（風間 2008: 49）

2.2. 第Ⅱ群

2.2.1. ウデヘ語

表5. ウデヘ語の条件形式（風間 2004, 2010aに基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
同時副動詞	*-mi*					
条件形式		*-lisi-PERS, bisi*	*-isi-PERS*		*bisi*	

ウデヘ語は、上記の4つの形式で条件文を構成する。但し、ウデヘ語には第Ⅰ群に見られるDS条件副動詞**-rAk-*と対応する条件副動詞が見られない。ウデヘ語の条件形式は、上記の表5で示すように、指示転換による使い分けが見られる形式*-mi* (SS), *-isi-* (DS)とそうではない形式*-lisi-*[10] (VS), *bisi* (VS)の2つに分かれる。条件文の意味類型において、現実条件文は同時副動詞*-mi*, 条件副動詞*-lisi-*, *-isi-*, 条件小詞*bisi*で示され、非現実条件文は*bisi*で表される[11]。主節に仮定法が用いられる際に非現実条件文を構成する条件小詞*bisi*は、コピュラ動詞*bi-*の形動詞過去形が文法化したものであると指摘されている（風間 2010a参照）[12]。指示転換のある条件形式と指示転換のない条件形式が共存する現実条件と違って、ウデヘ語の非現実条件には指示転換による区別が見られない（用例5-7と5-8参照）。

現実条件

SS

5-1) **čaala-mi** diga-ja-u.
agree-SIM.CVB eat-IMP-2PL

[10] 一方、Nikolaeva and Tolskaya（2001）とGirfanova（2002）では、風間（2010a）と違って、ウデヘ語の条件副動詞を*-li-* (SS), *-(l)isi-* (DS)のように分類している。この違いについては、今後の課題とする。

[11] カンチュガ（2010: 47）には同時副動詞*-mi*による非現実条件文の用例（2例のみ）が確認できるが、その用法が一般的であるとは考えられないため、本稿では対象としない。Nikolaeva and Tolskaya（2001）と風間（2010a）でも主節に仮定法が用いられる環境で、非現実条件文を構成する形式として*bisi*をあげている。

[12] ウデヘ語の条件形式*bisi*は、上記のエウェンキー語などにおいて、過去の条件節を構成する*bisiki-*（エウェンキー語の場合）と対応する可能性がある。その根拠を以下に示す。まず、ウデヘ語において母音間の/*-k-*/の消失現象が見られる。さらに両形式が用いられる統語的環境（形動詞に後続して分析的な構造を成す）が似ている。但し、両形式は指示転換による制限（エウェンキー語の*bisiki-*: DS, ウデヘ語の*bisi*: VS）において、違いが見られる。この2つの形式が対応するかを明らかにするためには、音韻対応や統語的観点から再考察する必要がある。そのため、本稿ではこの可能性を排除して考察を行う。

「同意するなら、（あなたたちは）（それを）食べなさい」

（風間 2010a: 224）

5-2) jəu=dəə maŋga **baa-lisi-ji**, sii=tənə minəwə gələ-gi-tə-i=ǰə.
what=CLT hard see-COND.CVB-REF.SG you=CLT I.ACC seek-REP-OPT-2SG=CLT
「何か困ったことに遭ったら、私を呼んでくれ」

（風間 2010a: 227）

5-3) si amba-wa **waa-i** **bi-si**, məmi waa-ǰaŋa-i.
you.SG.NOM evil-ACC kill-PTCP.PRS be-PTCP.PST oneself.ACC kill-PTCP.FUT-2SG
「あなたが魔物を殺したら、（あなた）自分自身を殺すことになるだろう」

（Nikolaeva and Tolskaya 2001: 752）

DS

5-4) aǰiga-ǰiga **olokto-lisi-ti**, minti əmə-gi-ǰəŋə-fi.
girl-PL cook-COND.CVB-3PL we.INCL come-REP-PTCP.FUT-1PL.INCL
「女の子たちが調理するなら、私たちは戻ってくる」

（Nikolaeva and Tolskaya 2001: 749）

5-5) bii **budə-isi-i**, əi kusigə xəgi-xi tiŋmə-ǰəŋə-ni.
I die-COND.CVB-1SG this knife down-DIR fall-PTCP.FUT-3SG
「私が死んだら、このナイフが下に落ちるだろう」

（風間 2010a: 227）

5-6) **ə-ǰəŋə-i** **sitələ** **bi-si**, waa-ǰaŋa-i.
NEG-PTCP.FUT-2SG adopt.a.child be-PTCP.PST kill-PTCP.FUT-1SG
「（あなたが）（私を）養子にしないなら、（私は）（あなたを）殺すだろう」

（風間 2004: 306）

非現実条件

SS

5-7) mamasa-xi **bi-si**, sitə-xi=də ədə-musə-i sii.
wife-PROP be-PTCP.PST child-PROP=CLT become-SUBJ-2SG you.SG.NOM
「もし妻持ちだったら、子持ちにもなっていたことだろうに、あなたは」

（風間 2010a: 220）

DS

5-8) si ni-wə=də **gələ-ə** **bi-si**, sinəwə bələsi-du-musə.
you.SG.NOM who-ACC=CLT ask-PTCP.PST be-PTCP.PST you.SG.ACC help-3PL-SUBJ
「あなたが誰かにお願いしていたら、（彼らは）あなたを助けたのに」

（Nikolaeva and Tolskaya 2001: 751）

2.2.2. オロチ語

オロチ語には、下記の表 6 で示すように、4 つの条件形式が見られる。オロチ語には、ウデヘ語と違って、異主語限定の条件副動詞*-*rAk*-と対応する条件副動詞-*(A)ki*-が存在す

る。本稿における条件文のパラメータからみると、現実条件は*-mi* (SS), *-wi* (SS), *-ičAA-*[13] (DS), *-(A)ki-* (DS)[14]で、非現実条件は*-mi* (SS), *-(A)ki-* (DS)で示され、同主語／異主語条件文の区別が明確である（以下用例参照）。そのため、オロチ語の条件文には指示転換による使い分けが保たれていると考えられる。

表6. オロチ語の条件形式（Avrorin and Boldyrev 2001に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
同時副動詞	*-mi*			*-mi*		
条件副動詞	*-wi*		*-ičAA-PERS,-(A)ki-PERS*			*-(A)ki-PERS*

現実条件

SS

6-1) jaa-wa=daa **ə-mi** **bəiči-jə**, jaa-wa=da baa-wasi.
what-ACC=CLT NEG-SIM.CVB hunt-PTCP what-ACC=CLT obtain-NEG.PTCP.PRS
「何も獲らなかったら、何も得られない」
（Avrorin and Boldyrev 2001: 367）

6-2) sinəwə **baačigi-wi**, bələči-ǰəŋə-i.
you.SG.ACC meet-COND.CVB help-PTCP.FUT-1SG
「あなたに会ったら、（私は）助けるだろう」
（Avrorin and Boldyrev 2001: 372）

DS

6-3) ami-si bəjumə **waa-ičaa-n'i**, imuksə-wə-n'i ǰəb-ǰəŋə-si.
father-2SG elk.ACC kill-COND.CVB-3SG fat-ACC-3SG eat-PTCP.FUT-2SG
「あなたのお父さんがヘラジカを取ったら、あなたはその脂を食べるだろう」
（Avrorin and Boldyrev 2001: 208）

6-4) təəlumu-wə **gələ-əki-si**, bii təəlumuči-ǰəŋə-ji.
story-ACC want-COND.CVB-2SG I narrate.story-PTCP.FUT-1SG
「物語がほしいなら、（私が）話してやる」
（Avrorin and Boldyrev 2001: 203）

---

[13] オロチ語の条件副動詞*-ičAA-*は、隣接しているツングース諸語の条件副動詞（ウデヘ語の*-isi-*, ナーナイ語の*-OčıA-*, ウルチャ語の*-wočA-*）との対応関係が考えられる（風間2010a, 2010b参照）。

[14] しかし、Avrorin and Lebedeva（1968）では、*-(A)ki-*による同主語条件文が1例（下記参照）見られるが、その用例が1例にすぎないため、この用例に対する判断は保留しておく。

aja **dəŋsi-ki-si**, əgdi-wə baa-ǰaa-si
good work-COND.CVB-2SG a.lot-ACC get-PTCP.FUT-2SG
「あなたがよく働いたら、たくさん得られるだろう」
（Avrorin and Lebedeva 1968: 206）

非現実条件

SS

6-5) adʊlikaaŋki　**bi-či**　　**bi-mi**,
net.PROP　be-PTCP.PST　be-SIM.CVB
əi　noso-wo　waa-ǰaŋa-i　bi-či=gin'i.
this　boar.ACC　kill.PTCP.FUT.1SG be-PTCP.PST=CLT
「私が網持ちだったら、この猪を獲れたのに」

（Avrorin and Boldyrev 2001: 320）

DS

6-6) sii　uutəčəkəmi　doo-dʊn'i　**bukki**　**bi-əki-si**,
you.SG.NOM　hunting.place?　inside-DAT-3SG　die.PTCP.PRS　be-COND.CVB-2SG
giamsa-si　taa-dʊ　bi-ǰəŋə-ni　bi-čii=gin'i.
bones-2SG　that-DAT　be-PTCP.FUT-3SG　be-PTCP.PRS=CLT
「あなたが狩場の中で死んだなら、あなたの骨はあそこに残っていたのに」

（Avrorin and Boldyrev 2001: 320）

2.2.3. ホジェン語

中国領で話されるホジェン語の条件文は、異主語限定の条件副動詞*-*rAk*-に遡る形式である条件副動詞-*ki*-によって構成される。しかし、ホジェン語の-*ki*-は、下記の用例で示すように、指示転換と関係なく、条件文を形成する。また、上記のウデヘ語やオロチ語と違って、ホジェン語の同時副動詞-*mi*による条件用法は確認できない。同時副動詞-*mi*は、主に同時または主動作の様態や方法を表す形式として用いられる（下記の用例7-5は同時用法）。意味類型においては、条件副動詞-*ki*が現実・非現実条件にかかわらず条件文の従属節に用いられる。

表7. ホジェン語の条件形式（李 2006, 2011, Tamura 2008に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
条件副動詞	*-ki-PERS*			*-ki-PERS*		

現実条件

SS

7-1) su　ǰuru　**soromači-ki**,　turusiki soromači=a.
you.PL.NOM two　fight.each.other-COND.CVB outside　fight.each.other.IMP=CLT
「あなたたち二人は喧嘩するなら、外で喧嘩しなさい」

（李 2006: 74）

DS

7-2) si **ənə-ki-si**, bi ənə-šə-yi.

you.SG.NOM go-COND.CVB-2SG I go-NEG.N.PST-1SG

「君が行くなら、私は行かない」

（李 2006: 77）

非現実条件

SS

7-3) bi **sa-ki-yi,** ǰəfu-šə da-xa-yi.

I know-COND.CVB-1SG eat-NEG.N.PST become-PTCP.PST-1SG

「もし私が知っていれば、食べなかった」

（李 2006: 74）

DS

7-4) ti mo **nədə-ki-ni**, oki ai bi-či-n[15].

that tree put-COND.CVB-3SG how good be-PTCP.N.PST-3SG

「（人が）（花の周りに）その棒を置けば、どんなに良かったか」

（李 2011: 214）

副動詞*-mi*の用例（同時用法）

7-5) tigurun xofur xofur **sokutu-mi** omi-xə-ti..

they ONMT get.drunk-SIM.CVB drink-PTCP.PST-3PL

「彼らは酔いながら飲んだ」

（Tamura 2008: 43）

2.3. 第Ⅲ群

2.3.1. ナーナイ語

表8. ナーナイ語の条件形式（Avrorin 1961, 1981, 風間 2010b, 2011に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
同時副動詞	*-mı*					
条件形式	*-pı*	*osını*	*-OčıA-PERS*		*osını, bimčəni*	

ナーナイ語は、上記の表8に見られる条件形式で条件文を構成する。ナーナイ語にも、ウデヘ語と同じく、異主語限定の条件副動詞**-rAk-*と対応する条件副動詞は確認できない。ナーナイの現実条件は、*-mı* (SS), *-pı* (SS), *osını* (VS), *-OčıA-* (DS)で、非現実条件は*osını* (VS), *bimčəni* (VS)で表される。即ち、ナーナイ語の現実条件形式には、指示転換による区別がある形式（同時・条件副動詞）とそうではない形式（条件小詞）が共存していること

[15] この文における従属節と主節の人称標示は、同じく3人称単数*-n(i)*であるが、同主語とは考えられないため、異主語条件文と判断する 。

が確認できる[16]。一方、条件形式*osını, bimčəni*[17]で成される非現実条件文においては、指示転換による使い分けが見られない（用例8-6と8-7参照）。風間（2010b: 246）によれば、*osını*は動詞*o-*「なる」の3人称現在形動詞に由来する形式であると推定されている[18]。また、*bimčəni*はコピュラ動詞*bi-*の3人称仮定形が文法化したものであると考えられる。この2つの形式には3人称の人称標識*-nı*が付いているが、従属節における主語の人称によって変化しないため、条件小詞と見なす。

現実条件

SS

8-1) piktə　**ǰəmusi-lu-mi**,　(nəə)　soŋgo-ǰaraa.
child　be.hungry-INC-SIM.CVB　immediately　cry-FUT.3SG
「子供はお腹が空きだしたら、すぐに泣くだろう」
（風間 2011: 122）

8-2) əməčəə ǰaka-wa　**baa-pi**,　baigoandoji　buu-guuri.
like.this thing-ACC　obtain-COND.CVB enemy.DAT.REF give-COHOR.1PL
「（私たちは）こんな物を得たなら、敵に渡そう」
（風間 2010b: 154-155）

DS

8-3) čımana　**tugdə-učiə-ni**,　mii ənə-əsim-bi.
tomorrow　rain-COND.CVB-3SG　I　go-PTCP.PRS.NEG-1SG
「明日雨が降ったら、私は行かない」
（風間 2010b: 245）

SS

8-4) agda-ası　**osı-nı**,　ičə-ndə-ruu.
believe-NEG.PRS become.PTCP.PRS-3SG　see-DIRINT-IMP
「信じないなら、見に行け」
（風間 2011: 130）

DS

8-5) nixəli-əsi　**osı-nı**,　mii mənə　njaaǰıl-čı　ənə-ǰəəm-bi
open-NEG.PRS　become.PTCP.PRS-3SG　I　oneself　cousin-DIR　leave-FUT-1SG
「あなたが開けないなら、私は自分の従兄弟たちの所へ行くわ」
（風間 2011: 131）

---

[16] 風間（2011）は、3つの条件形式*-pı, osını, -OčıA-*を対象にその使い分けについて詳しく論じている。
[17] 本稿では紙面の制約から*bimčəni*による非現実条件の用例を省略した。詳しくはAvrorin（1961: 251-252）を参照されたい。
[18] 但し、*osını*もウデヘ語の*bisi*と同じく、その形や用法から見て、エウェンキー語などの*bisiki-*と関連付けられる形式であるかもしれない。しかし、これも現時点で確かでないため、本稿ではその可能性を排除する。以下のウルチャ語の*osını*に対しても同様。

非現実条件

SS

8-6) buə piktə-pu **bi-či-n** **osi-ni=ka**,

we child-1PL be-PTCP.PST-3SG become.PTCP.PRS-3SG=CLT

siniəčiə=ka o-mča=ma.

like.you=CLT become-SUBJ.3=CLT

「もし私たちの子が生きていたら、あなたのようになっていただろうに」

（Avrorin 1981: 73）

DS

8-7) sii **ǰi-či-si** **osɪ-nɪ**,

you.SG.NOM come-PST.PTCP-2SG become.PTCP.PRS-3SG

mii ərdəŋgə mədə-wə gisurə-mčə-i.

I interesting news-ACC tell-SUBJ-1SG

「あなたが来ていたら、私は面白いニュースを話してあげたのに」

（Avrorin 1961: 251）

2.3.2. ウルチャ語

表9. ウルチャ語の条件形式（風間 2006, 2010cに基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
同時副動詞	*-mɪ*					
条件形式	*-pɪ*	*osɪnɪ*	*-wʊčA-PERS*	*bimčə(n)*		

ウルチャ語の条件文は、上記の5つの形式で構成される。ウルチャ語にも、ナーナイ語と同様に、DS条件副動詞**-rAk-*に遡る条件副動詞は存在しない。ウルチャ語の現実条件は、*-mɪ* (SS), *-pɪ* (SS), *osɪnɪ* (VS), *-wʊčA-* (DS)で示され、これらの条件形式は指示転換の働く形式（同時・条件副動詞）と指示転換の働かない形式（条件小詞）に分類できる。一方、ウルチャ語の非現実条件は、下記の用例で示すように、条件形式*bimčə(n)*[19]で成される。同形式は、コピュラ動詞*bi-*の3人称仮定形が文法化したものであると考えられる。風間（2010c: 128-129）によると、用例9-8のように従属節の主語によって*bimčə(n)*の人称標示が変化する話者もいるが、「今日多くの話者はその活用を失って、主語の人称に関わり無く、*bi-mčən*という形式のみを用いて分析的に表現する（用例9-7参照）」と述べられている。この記述や下記の用例から見て、ウルチャ語の*bimčə(n)*は、指示転換と関係なく、同主語あるいは異主語の非現実条件文を構成することが確認できる。

[19] *bi-mčə-n* (bi-SUBJ-3SG)は、主節に仮定法1 (*-mčA-*)または仮定法2 (*-(r)ɪlAxA(n)-*)が用いられる際に非現実条件文を成す（風間 2010c参照）。

現実条件

SS

9-1) xaı=daa　maŋga-wa-nı　**baka-mı**,　mimbə　xəərči-səəri.
what=CLT difficulty-ACC-3SG　see-SIM.CVB　I.ACC　call-FUT.IMP.2SG
「何でも困ったことに遭ったら、私を呼んでくれ」
（風間 2006: 117）

9-2) tıı　biruu-ti　**ŋənə-pi**,　bak-ıla-tı.
that　village-DIR　go-COND.CVB find-FUT-3PL
「（彼らは）その村へ行けば見つけるだろう」
（風間 2010c: 132）

9-3) mimbə　uləəsii　**osı-nı**,
I.ACC　like.PTCP.PST.2SG　become.PTCP.PRS-3SG
xaı-wa,　kuumbi　čaalı-raa　ǰololo-rʊʊ.
what-ACC　breast.REF　cut.out-ANT.CVB　throw-IMP
「私のことが好きなのなら、乳房を切り取って、投げてよこせ」
（風間 2006: 137）

DS

9-4) sin　**xaa-wʊča-sı**,　tıı　mapa　wən-dilə.
you.SG.GEN bring.boat.alongside-COND.CVB-2SG that　grandfather say-FUT.3
「あなたが着岸したら、そのおじいさんは言うだろう」
（風間 2010c: 133-134）

9-5) ǰuənjii　əuǰu-i-si　**osı-nı,**
two　descend-PTCP.PRS-2SG　become.PTCP.PRS-3SG
sumbə　čʊpal　waaǰılambı.
you.PL.ACC　all　kill.FUT.1SG
「二人で降りるなら、（私は）お前たちを全部殺すぞ、一緒にここで」
（風間 2006: 95）

非現実条件

SS

9-6) min　am-bı　tı-dʊ　**bi-mčə-n**,　bələč-iləxə-ni=guni.
my　father-1SG　that-DAT　be-SUBJ1-3SG　help-SUBJ2-3SG=CLT
「私の父があそこにいたら、手伝ってくれただろうに」
（風間 2010c: 128）

9-7) bii　**saa-rıı**　**bi-mčə-n**,　bələč-iləxəm-bi.
I　know-PTCP.PRS be-SUBJ1-3SG　help-SUBJ2-1SG
「私が知っていたら、助けたのに」
（風間 2010c: 129）

DS

9-8) min　ana　**bi-mčə-i**,　amba　iktə-du-ni　bi-iləxə-si.

I.GEN　NEG　be-SUBJ1-1SG　devil　tooth-DAT-3SG　be-SUBJ2-2SG

「私がいなかったら、（あなたは）魔物の歯にかかっていただろう」

（風間 2010c: 129）

2.3.3. ウイルタ語

ウイルタ語では、下記の4つの条件副動詞で条件文を成す。ウイルタ語は、他の第Ⅲ群の言語と違って、異主語専用の条件副動詞*-rai-*（＜**-rAk-*）が存在し、異主語の現実・非現実条件文を形成する。また、ウイルタ語には、ナーナイ語やウルチャ語に見られるコピュラ動詞が文法化した条件形式は確認できない。ウイルタ語の現実条件は*-mi*[20] (SS), *-pee* (SS), *-kuta-* (DS), *-rai-* (DS)で、非現実条件は *-pee* (SS), *-rai-* (DS)で示され、指示転換が明確に維持されていると考えられる[21]。

表10. ウイルタ語の条件形式［Ikegami 2001 (1959), Tsumagari 2009, Ozolinja 2013に基づいて筆者が作成］

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
同時副動詞	*-mi*					
条件形式	*-pee*		*-kuta-PERS, -rai-PERS*	*-pee*		*-rai-PERS*

現実条件[22]

SS

10-1) **itə-mi**,　saa-ri-wi.

see-SIM.CVB　know-PTCP.PRS-1SG

「（私が）（それを）見たら、（それが何か）わかる」

［Ikegami 2001（1959）: 32］

10-2) tari　nari　**sinda-pee**,　jə-wə　iččee-ni.

that　man　come-COND.CVB　this-ACC　see+PRS-3SG

「あの人が来たら、これを見る」

（Tsumagari 2009: 17）

[20] Ikegami［2001 (1959): 28, 30］では、同主語副動詞*-mi*以外に異主語副動詞*-mi*に関する記述も見られる。後者の形式は、副動詞に必ず他動詞化接辞*-bu*を要求する点で、SS副動詞*-mi*と異なる。本稿では、他動詞化接辞*-bu*を必要とする異主語副動詞*-mi*については考慮しない。

[21] Ikegami［2001（1959）］は、*-mi* (SS) / *-rai-* (DS)を非確定条件（unfinished action）と、*-pee* (SS) / *-kuta-* (DS)を確定条件（finished action）と区別している。

[22] 上記のウイルタ語の用例10-2と10-3は、文脈によって先行用法としての解釈も可能である。

DS

10-3) tari　nari　**sinda-uta-nnee**,　bii　ŋənnee-wi.
that　man　come-COND.CVB-3SG　I　go+PRS-1SG
「あの人が来たら、私は行く」

（Tsumagari 2009: 17）

10-4) tari　nari　**sindaayi-ni**,　bii　ŋənnee-wi.
that　man　come+COND.CVB-3SG　I　go+PRS-1SG
「あの人が来るなら、私は行く」

（Tsumagari 2009: 17）

非現実条件

SS

10-5) tari　pəttəə　**waa-nǰi-pee**,　waarilaxa-ni.
that　seal.ACC　kill-DIRINT-COND.CVB　kill.SUBJ-3SG
「（彼が）あのアザラシを獲りに行ったら、獲れたのに」

（Ozolinja 2013: 320）

DS

10-6) nooni dugdu　**beeji-ni**,　ŋənneeləxəmbi　bičči.
he　house.DAT be+COND.CVB-3SG　go.FUT.1SG　be.PTCP.PST
「彼が家にいたならば、（私は）あそこへ行っただろうに」

［Ikegami 2001（1959: 30）］

2.4. 第Ⅳ群

2.4.1. 満洲語

表11. 満洲語の条件形式（Möllendorff 1892, Li 2000, Avrorin 2000[23]に基づいて筆者が作成）

	現実条件			非現実条件		
	SS	**VS**	**DS**	**SS**	**VS**	**DS**
条件副動詞		*-či*			*-či*	

満洲語は、条件副動詞*-či*によって条件文が形成される。同形式は、エウェンキー語などに見られるDS専用の条件副動詞**-rAk-*と対応するものであると考えられる［池上 1999（1953）参照］。しかし、満洲語の*-či*は、下記の用例で示すように、指示転換や意味の制約なく、条件節を成すのが大きな特徴である。また、ほかの中国領ツングース諸語（ソロ

[23] Avrorin（2000: 204）では、満洲語の先行副動詞*-fi*（第Ⅲ群の条件副動詞*-pi*と対応する形式）に条件用法があると述べている。但し、満洲語の*-fi*による条件用法に関する記述は、管見の限り、これが唯一である。また、その用例も下記の一例のみである。そのため、本稿ではこれ以上触れない。

kičə-fi　jooni　mutə-mbi.
try.hard-ANT.CVB　everything　can-IMPF
「頑張ったら、あらゆることができる」　（Avrorin 2001: 204）

ン語とホジェン語）と同じく、満洲語の副動詞-*mə*（他のツングース諸語における副動詞-*mi*と対応する形式）による条件用法は確認できない。満洲語の副動詞-*mə*は、主に同時・先行・目的または主動詞と結合して補助動詞を構成する形式として用いられる。なお、満洲語口語と呼ばれるシベ語に関しては、久保・児倉・庄声（2011: 42）が条件形の一つとして-*mə*をあげている。しかしながらこの-*mə*は、「恒常的命題の前件「～すると」を表わす」（久保・児倉・庄声 ibid.）としているように、本稿でいう「現実条件」とは異なる（下記の用例11-5と11-6参照）。

現実条件

SS

11-1) tačiku də **dosi-či**, kičə-mə tači.
school DAT enter-COND.CVB try.hard-SIM.CVB study.IMP
「学校に入ったら、一生懸命勉強しなさい」

(Avrorin 2000: 207)

DS

11-2) ədun naka-rakū **o-či**, ǰai jabu-mə mutə-rakū.
wind stop-PTCP.IMPF.NEG become-COND.CVB further go-SIM.CVB can-PTCP.NEG
「風がやまないなら、さきへ進むことができない」

(Avrorin 2000: 207)

非現実条件

SS

11-3) **sa-ha** **bi-či**,
know-PTCP.PST be-COND.CVB
aifini simbə tuwa-nǰi-rakū bi-hə-o.
earlier you.ACC see-DIRINT-PTCP.NEG be-PTCP.PST-Q
「もし私が知っていたら、もっと早くあなたを見に行ったのに[24]」

（Möllendorff 1892: 36）

DS

11-4) bithə ara-rakū **bi-hə** **bi-či**,
letter write-PTCP.IMPF.NEG be-PTCP.PST be-COND.CVB
ama gənə-rakū o-mbi-hə.
father go-PTCP.IMPF.NEG become-IMPF-PTCP.PST
「私が手紙を書かなかったら、父は行かなかったのに」

（Li 2000: 363）

シベ語の副動詞-*mə*による条件的用法（恒常条件）

11-5) ərə kurwu-wə **dulu-mə**, čafčalə-də isinə-mi.
this bridge-ACC cross-SIM.CVB Cafcale-DAT arrive-IMPF

[24] これは、「もし私が知っていたら、もっと早くあなたを見に行かなかったのか」の意訳である。

「この橋を渡るとチャプチャルに着く」

（久保・児倉 2013: 88）

11-6) uiN　bya　o-mə,　afqa　sərχuN o-mi.
nine　month　become-SIM.CVB　sky　cool　become-IMPF
「九月になると、天気は涼しくなる」

（久保・児倉・庄声 2011: 92）

3. まとめ

本稿は、条件文の通言語的パラメータ（指示転換と意味類型）に基づき、ツングース諸語における条件文の相違について考察を行った。下記の表12は、ツングース諸語の地理的分布に基づいて本研究の結果を示したものである。まず、北部ツングース諸語（エウェンキー語、エウェン語、ネギダル語）の条件文において、意味上のパラメータによる使い分けは見られず、もっぱら指示転換による対立のみ存在する。そのため、同主語／異主語による条件文の区別が非常に明確である。一方、中国領に話される南部ツングース諸語（ソロン語、ホジェン語、満洲語）には、このような指示転換による条件形式の使い分けが全く見られない。つまり、これらの中国領ツングース諸語では、異主語専用の条件副動詞*-*rAk*-から由来する条件副動詞が、異主語だけではなく、同主語の条件文でも用いられるこ

表12. ツングース語の地理的分布による条件形式（DS条件副動詞*-*rAk*-と対応する形式をボールド表示）

		現実条件			非現実条件		
		SS	VS	DS	SS	VS	DS
北部	Ek (I)	*-mi*		***-rAki-PERS***	*-mi*		***-rAki-PERS***
	E (I)	*-mi*		***-rAk-PERS***	*-mi*		***-rAk-PERS***
	N (I)	*-mi*		***-jik-PERS***	*-mi*		***-jik-PERS***
東部	Ol (III)	*-mı, -pı*	*osını*	*-wʊčA-PERS*		*bimčə(n)*	
	Nn (III)	*-mı, -pı*	*osını*	*-OčıA-PERS*		*osını, bimčəni*	
	Oc (II)	*-mi,-wi*		*-(i)čAA-PERS,* ***-(A)ki-PERS***	*-mi*		***-(A)ki-PERS***
	Ut (III)	*-mi,-pee*		***-rai-PERS***, *-kuta-PERS*	*-pee*		***-rai-PERS***
	U (II)	*-mi*	*-lisi-PERS, bisi*	*-isi-PERS*		*bisi*	
南部	S (I)		***-kki-PERS***			***-kki-PERS***	
	Hz (II)		***-ki-PERS***			***-ki-PERS***	
	M (IV)		***-či***			***-či***	

とである。また、北部と東部ツングース諸語においてSS条件文を成す副動詞*-mi*が、上記の中国領ツングース諸語においては、条件標識として機能しないことも大きな特徴である。しかし、同じく中国領内に分布するシベ語については、*-mə*に条件を表わすような用法が確認されるが、この用法は本稿で扱った条件形とは異なる意味（恒常的命題）を表す。最後に、北部と南部の中間に位置する東部ツングース諸語は、DS条件副動詞*-*rAk*-と対応する条件副動詞の有無によって、大きく2つのタイプに分けられる。DS条件副動詞*-*rAk*-が欠如している東部ツングース諸語（ウルチャ語、ナーナイ語、ウデヘ語）において、現実条件文を成す条件形式は、指示転換が機能する形式（同主語／異主語限定の同時・条件副動詞）と指示転換が機能しない形式、2つに分類できる。次に、非現実条件においては、指示転換による条件形式の使い分けが見られない。また、これらのツングース諸語は、*bisi, osini, bimčə(ni)*のようなコピュラ動詞の形動詞または仮定法の形式が文法化したと推定される条件形式で、非現実条件を成すことも共通している。一方、DS条件副動詞*-*rAk*-を保持している東部ツングース諸語（オロチ語とウイルタ語）は、現実・非現実条件文において、指示転換による条件副動詞の区別が保たれている。以上のことから、ツングース諸語の条件文に見られる言語間の差異は、ツングース諸語の地理的分布とDS条件副動詞*-*rAk*-の消失に基づいている可能性が考えられる。

筆者は、ツングース諸語における条件文の相違をもたらしたと考えられるこの2つの可能性について次のように推定している。まず、ツングース諸語の地理的分布に基づく違いに関しては、モンゴル諸語や中国語による影響である可能性が考えられる。これは、東部と南部ツングース諸語と接しているこれらの周辺言語の条件文において、指示転換による条件形式の使い分けが見られないためである。また、モンゴル語などに見られるコピュラ動詞による条件小詞*bol*（<*bol-bol*: become-COND.CVB）の用法は、一部の東部ツングース諸語に見られる条件形式と共通しているところがある。風間（2010b: 246）でも、ナーナイ語の条件形式*osɪnɪ*がモンゴル語の*bol*と類似しているため、モンゴル語からの間接的な影響によって生じた可能性を示唆している。さらに、DS条件副動詞*-*rAk*-の消失に関しては、音韻変化による可能性を推定している。但し、これらの推論は仮説の段階でとどまっていることを記しておく。

さらに、本稿は次のような制約があることを断っておく。まず、一部の言語においては研究資料の制限で、限られた用例で判断したことがある。また、本研究では一般に条件文を構成すると見なされる形式を中心に考察を行ったため、本稿で扱っていない形式で条件文を構成する可能性がある。さらに、本稿は東部ツングース諸語において、現実条件文を成す条件形式が複数存在する理由やその使い分けについても論じていない。これらに関しては、今後の課題としたい。

略号一覧

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person, ACC: accusative, ANT.CVB: anterior converb, CLT: clitic, COHOR: cohortative, COND.CVB: conditional converb, DAT: dative, DIR: directive, DIRINT: directional-intentional, DS: different-subject, E: epenthesis vowel, EXC:

exclusive, FUT: future, GEN: genitive, IMP: imperative, IMPF: imperfective, INC: inchoative, INCL: inclusive, INS: instrumental, INTJ: interjection, LOC: locative, NEG: negative, NOM: nominative, N.PST: non past, OF: object-focus, ONMT: onomatopoeia, OPT: optative, PERS: personal suffix, PL: plural, PRED: predicative, PROP: proprietive, PRS: present, PST: past, PTCP: participle, Q: question, REF: reflexive, REP: repetitive-reversive, SG: singular, SIM.CVB: simultaneous converb, SS: same-subject, SUBJ: subjunctive, VS: variable-subject, -: 接辞境界, =: 接語境界, +: 融合

謝辞

本稿の作成にあたって、日ごろからご指導くださった津曲敏郎先生に深く感謝を申し上げる。さらに、査読の先生からも有意義なご指摘やコメントを頂いた。ここに記して感謝を申し上げたい。

参考文献

Avrorin, Valentin A. 1961. *Grammatika Nanajskogo Jazyka*, vols 2. Leningrad: AN. SSSR.

Avrorin, Valentin A. 1981. *Sintaksicheskie Issledovanija po Nanajskomu Jazyku*. Leningrad: Nauka.

Avrorin, Valentin A. 2000. *Grammatika Man'chzhurskogo Pis'mennogo Jazyka.* Sankt-Peterburg: Nauka.

Avrorin, Valentin A. and B. V. Boldyrev. 2001. *Grammatika Orochskogo Jazyka*. Novosibirsk: izdatel'stvo. SO RAN.

Avrorin, Valentin A. and E. P. Lebedeva. 1968. Orochskij jazyk. Skorik, P. R. (ed.). *Mongol'skie, Tunguso-Man'chzhurskie i Paleoaziatskie Jazyki*: 191-209. Leningrad: Nauka.

白尚燁 2014.「ツングース諸語における副動詞語尾-*mi*の相違について」北方言語ネットワーク（編）.『北方言語研究』4: 85-110. 札幌：北海道大学大学院文学研究科.

Bulatova, Nadezhda and L. Grenoble. 1999. *Evenki.* München / Newcastle: Lincom Europa.

Cincius, Vera I. 1982. *Negidal'skij Jazyk: issledovanija i materialy*. Leningrad: Nauka.

Dixon, Robert M. W. 2009. The semantics of clause linking in typological perspective. R. M. W. Dixon and A. Y. Aikhenvald (eds.) .*The Semantics of Clause Linking*: 1-55. Oxford: Oxford University Press.

Girfanova, Albina H. 2002. *Udeghe.* München / Newcastle: LINCOM EUROPA.

Hu, Zhengyi and Chaoke. 1986. *Ewenkiyu Jianzhi* (= A Sketch of the Ewenke language). Beijing: Minzuchubanshe.

Ikegami, Jiro 1974. Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprache. Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. *Tagung der Permanent international Altaische Conference 1969 in Berlin*: 271-272. Berlin

Akademie Verlag.
池上二良 1999.「満洲語の動詞語尾-ci及び-cibeについて」『満洲語研究』：258-271. 東京：汲古書院（初出：in 1953『金田一博士古稀記念言語民俗論叢』：775-790. 三省堂）.
Ikegami, Jiro 2001. The verb inflection of Orok. In: *Tsunguusugo Kenkyuu*: 24-72. Tokyo: Kyuukoshoin (First appeared in: 1959, *Kokugo Kenkyu* No. 9: 34-73. Kokugakuin Daigaku Kokugokenkyukai, Tokyo).
風間伸次郎 1996.「ヘジェン語の系統的位置について」『言語研究』109：117-139.
風間伸次郎 2002. 『ネギダール語テキストと文法概説』（ELPR publication series: A2-021, ツングース言語文化論集 19）吹田：大阪学院大学情報学部.
風間伸次郎 2004.『ウデヘ語テキスト(A)』（ツングース言語文化論集 24/A）府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
風間伸次郎 2006.『ウルチャロ承文芸原文集 3』（ツングース言語文化論集 30）札幌：北海道大学大学院文学研究科.
風間伸次郎 2007.『ソロンの民話と伝説 1』（ツングース言語文化論集 37）札幌：北海道大学大学院文学研究科.
風間伸次郎 2008.『ソロンの民話と伝説 2』（ツングース言語文化論集 41）府中：東京外国語大学.
風間伸次郎 2010a.『ウデヘ語テキスト 6』（ツングース言語文化論集 47）府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
風間伸次郎 2010b.『ナーナイの民話と伝説 12』（ツングース言語文化論集 48）府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
風間伸次郎 2010c.『ウルチャロ承文芸原文集 5』（ツングース言語文化論集 49）府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
風間伸次郎 2011.「ナーナイ語の複文について：条件形式の使い分けを中心として」北方言語ネットワーク（編）『北方言語研究』1: 115-138. 北海道大学大学院文学研究科.
風間伸次郎 2013.「ソロン語のアスペクト、ヴォイス、モダリティ」『語学研究所論集』18: 409-425.
カンチュガ、A. 2010.『ウデヘ語自伝テキスト 2：青年時代』（津曲敏郎編訳）（ツングース言語文化論集 50）札幌：北海道大学大学院文学研究科.
久保智之・児倉徳和・庄声 2011.『シベ語の基礎』 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
久保智之・児倉徳和 2013.「シベ語」小野智香子（編）『日本語の隣人たち』Ⅱ：72-91. 東京：白水社.
Li, Gertraude R. 2000. *Manchu A Textbook for Reading Documents*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
李林静 2006.『ホジェン語の動詞構造』【博士論文】千葉大学大学院社会科学文化研究科.

李林静 2011.「ホジェン語の会話テキスト (1)」 北方言語ネットワーク編 『北方言語研究』1: 197-216. 札幌：北海道大学大学院文学研究科.

Malchukov, Andrej L. 1995. *Even*. München/Newcastle: Lincom Europa.

Malchukov, Andrej L. 2008. *Sintaksis Evenckogo Jazyka Strukturnye, Semnaticeskie, Kommunikativnye, Aspetkty.* Sankt-Peterburg: Nauka.

Maslova, Elena 2003. *A Grammar of Kolyma Yukaghir*. Berlin /New York: Mouton de Gruyter.

Möllendorff, Von P. G. 1892. *A Manchu Grammar with Analyzed Texts.* Shanghai: The American Presbyterian Mission Press.

Nedjalkov, Igor V. 1995 Converbs in Evenki. Haspelmath, M. and E. Konig (eds.). *Converbs in Cross-Linguistic Perspective*: 441-463. Berlin / New York: Mouton de Gruyter.

Nedjalkov, Igor V. 1997 *Evenki*. London: Routledge.

Nikolaeva, Irina and M. Tolskaya. 2001. *A Grammar of Udihe*. Berlin / NewYork: Mouton de Gruyter.

Ozolina, L. V. 2013. *Grammatika Orokskogo Jazyka.* Novosibirsk: GEO.

Pevnov, A.M. and M.M. Khasanova. 2003. *Mify i Skazki Negidal'tsev.* ELPR publication series: A2-024, Suita: Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University.

Tamura, Kenichi 2008. Grammatical suffixes of Hezhen: with the text ‘Antu Mergen’ and its English and Japanese translations. *Bulletin of Aichi University of Education Humanities and Social Sciences* 57: 37-54.

Thompson, Sandra A. et al. 2007. Adverbial clauses. Timothy Shopen (Ed.). *Language Typology and Syntactic Description: Vol. II complex constructions*: 237-300. Cambridge: Cambridge University Press.

Tsumagari, Toshiro 2009. Grammatical outline of Uilta (Revised). *Journal of the Graduate School of Letters* 4: 1-21.

Vasilevič, Glafira M. 1936. *Sbornik Materialov po Evenkijskomu (tungusskomu) Fol'kloru*. Leningrad.

Whaley, Linsay J. 1997. *Introduction to Typology: the unity and diversity of language*. Thousand Oaks, California: Sage.

Differences of Conditionals in the Tungusic Languages

Sangyub BAEK
(Graduate School of Letters, Hokkaido University)

This study aims not only to clarify that the Tungusic languages display different patterns of conditional constructions but also to raise a possibility that such

distinctions of conditionals among Tungusic are based on geographical distribution of Tungusic and/or loss of DS conditional converb *-*rAk*-. This paper applies two typological parameters of conditionals to each Tungusic language as follows: switch-reference (same-subject, different-subject, and variable-subject) and semantic types (real and unreal conditionals).

In conclusion, conditionals in North Tungusic (Evenki, Even, and Negidal), both real and unreal, are formed with corresponding forms of two conditional converbal suffixes *-*mi* (SS) and *-*rAk*- (DS), which present a strict distinction of switch-reference. On the other hand, switch-reference does not function at all in the conditionals of South Tungusic (Solon, Hezhen, and Manchu), spoken in China, which are formed with conditional converbal suffixes (<*-*rAk*-). In addition, converb in -*mi* in this Chinese Tungusic does not serve as a conditional marker. East Tungusic (Nanay, Olcha, Uilta, Orochi, and Udihe) are divided into two groups on the basis of retention of DS conditional converbal suffix *-*rAk*-: 1) Nanay, Olcha, and Udihe, which lost the corresponding form of *-*rAk*-, have both switch-reference and non switch-reference oriented conditional forms in real conditional, whereas unreal conditionals, formed with special conditional particles, are not influenced by switch-reference, 2) Orochi and Uilta, which retain the corresponding suffix of *-*rAk*-, form conditionals in accordance with switch-reference. Therefore, the differences of conditionals among Tungusic are presumed to result from areal distribution of Tungusic and/or loss of DS conditional converbal suffix *-*rAk*-.

（ベック・サンヤップ　iyairaykere@hotmail.co.jp）